

2024 年度 第6回 公立大学法人埼玉県立大学教育研究審議会 議事録

1 開催日

2024 年 10 月 7 日(月)

2 開催方法

WEB 会議

3 参加者

星議長、磯田委員、伊藤委員、林委員、金村委員、東委員、濱口委員、田中委員、國澤委員、山崎委員、久保田委員、河村委員、廣渡委員、野中委員
オブザーバー参加：田口学長補佐兼専門職連携教育研修センター長、延原情報センター長、北畠地域連携センター長、滑川保健センター長

4 事務局

長岡副局長、高柳調整幹兼総務担当部長、濱口財務担当部長、酒井施設管理担当部長、小原教務・入試担当部長、今村学生・就職支援担当部長、中野研究・地域連携担当部長、篠原企画・情報担当部長

5 議事概要

【議事録確認】

議長から前回の議事録が提示され、内容について確認された。

【審議事項】

(1)保健医療福祉政策プログラム等に係る学則等の改正について

資料に基づき、伊藤副学長及び小原教務・入試担当部長から説明され、案のとおり承認された。

【報告事項】

(1)埼玉大学大学院との単位互換に関する覚書について

資料に基づき、東高等教育開発センター長から報告された。

○ 単位認定の上限について、改正された大学院設置基準によると、他の大学院において修得した単位は 15 単位を超えない範囲で認定できることになっている。これを踏まえると、上限が4単位というのは少ないのではないかと。

⇒ ひとまずこの内容でスタートしようということである。まだ本格的な話ではないが、特に社会学系の科目で他大学院との単位互換を検討していきたいという意見がある。埼玉大学大学院で上限の 15 単位を設定してしまうと、後々減らすことが難しくなってしまうため、まずは4単位から始めていき、履修状況をみてまた変えていくこととする。

(2)2024 年度科研費の採択状況について

資料に基づき、濱口研究開発センター長から報告された。

- 若手研究者の実績が上がっており、大型研究の成果も上がりつつあるが、これは URA などの研究支援の効果がでてきているということか。

⇒ 確かに若手研究者は目に見えて活性化していると思う。この背景として、2019 年に科研費の改革が行われ、若手の支援が充実してきたということが挙げられる。一方で 50 歳以上の教授の研究費については、全国的に見ても抑制がかかっており特に基盤研究 C で如実に出ている。よって、基盤研究 C を連続で取得し、研究が深化した教員は基盤研究 A、B にトライしていく流れになっていると思う。実力をつけた若手教員が他大学に移ってしまうというジレンマもあるが、研究開発センターとして、科研費65件を維持しつつ、若手・シニアの教員それぞれをバランスよく支援していきたい。

(3)2025 年度分科研費の応募状況について

資料に基づき、濱口研究開発センター長から報告された。